

論 壇

第59回日本小児アレルギー学会学術大会の
沖縄開催を振り返って社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院 小児科
崎原徹裕

沖縄本土復帰50周年の節目に当たる2022年。去る11月12-13日に、沖縄コンベンションセンター、ラグナガーデンホテルで第59回日本小児アレルギー学会学術大会・Asia Pacific Academy of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology 2022が合同開催されました。同学会の学術大会が沖縄で開催されるのは初めてであり、大会長である国立成育医療研究センターアレルギーセンター長の矢幸弘先生は「2022年は新型コロナの流行が収束することを願い、国内外から多くの仲間が集うことができる沖縄を会場として選んだ」とおっしゃっていました。初日はあいにくの雨天でしたが、国内外から多くの先生方がご来場され、各会場で活発な議論が行われていました。また、事前にドレスコードを「スーツ非推奨、かりゆしウェアもしくはカジュアルスタイル推奨」と通知しており、普段の学会とは違った沖縄ならではの南国的な雰囲気に会場が包まれ、皆さんの笑顔が印象的でした。

学会では、「沖縄企画」と題しシンポジウムの一枠をいただき、沖縄小児アレルギー研究会のメンバーである大城征先生、佐藤優子先生の座長進行の下、新垣洋平先生が“沖縄県の小児喘息入院の特徴”について、川下尋子先生が“沖縄県におけるアトピー性皮膚炎・乳児湿疹と出生月との関連”について、宮城俊雅先生が“沖縄県のピーナッツアレルギー”について、尾辻健太先生が“沖縄県の蕎麦アレルギーや花粉-食物アレルギー”について、それぞれ素晴らしい研究内容を御発表されました。発表後の質疑応答はもちろんのこと、シンポジウム終了後も演者の先生方が多くの先生に囲まれ質問攻めにあっているのを見て、もはや沖縄はアレルギー診療

における後進県ではないと感じました。同シンポジウムでは、私自身も“牛乳抗原の早期摂取の是非”についてプロコンディバートの演者として参加させていただき、貴重な経験を得ることができました。途中、接続トラブルなどもあり残念ながら最終討論の時間がカットされてしまいましたが、座長を務めてくださった酒井一徳先生が最後をうまくまとめてくださいました。ありがとうございました。

そして、学会2日目には沖縄県小児保健協会会長の宮城雅也先生が“小児保健活動に倫理を考える”というテーマで、沖縄県におけるこれまでの小児保健・小児医療の変遷などを壮大なスケールでご講演くださいました。講演内容もさることながら、個人的には最後の奥間稔先生との質疑応答にありました「子どもの最善の利益を確保することは大前提だが、子どもの代弁者である保護者がそれを行わない場合はどうするのか」との問いに対し、「時間をかけて対話する」必要性を説いておられ、あえて“説得”ではなく“対話”するという表現に終始されていたのが印象的でした。

私自身は、アレルギー診療を行う中で、ワクチン忌避やステロイド忌避の患者さん（の保護者）に多く遭遇します。これまでの自分の診療を振り返ってみますと、いかにエビデンスを明示して“説得”することに注力していたか、いかに自分が医療パターンリズムにとらわれていたかを痛感しました。私達が、「医学的・科学的に正しい」と思っている医療・診療行為は、これまでのエビデンスの蓄積のもと「医療統計学的に確からしい」結果を伴った行為ではあるものの、それが100%目の前の患者さんに対し最大限の利益を生むかどうかは、究極のところ誰にも

分かりません。だからと言って、エビデンスを無視して保護者の主張のみを受容することは不適切であり、そこに必要なのは相互理解を生む“対話”なのだと思いました。言うは易し、で頭では理解していても、いざ多忙な臨床の現場で実践できるかとなると、困難であることは言うまでもありません。しかし、一回の診療で対話を完結させることはそもそも不可能であり、そこは宮城先生のおっしゃった「時間をかけて」というところに真意があると思われま

す。宮城先生には研修医時代にご指導いただき、大変お世話になりましたが、十数年越しに改めてその言葉の重みを実感できたご講演でした。

学会が終わる頃には、朝の雨天が嘘のように晴れ渡った青空が広がっていました。本大会を通じ、沖縄で得た知識・手技が、全国そして海外の先生方の日常診療の一助となることを期待しながら、どこか誇らしい気持ちで帰路につきました。

アレルギーから子どもの未来と地球を考えよう

第59回
日本小児アレルギー学会
学術大会
APAPARI 2022 合同開催

Asia Pacific Academy of Pediatric Allergy,
Respiratory & Immunology

2022 JSPACI-APAPARI Joint Congress

2022年11月12日(土)・13日(日)

沖縄コンベンションセンター ラグナガーデンホテル
〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4-1-1

会長 大矢 幸弘 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
アレルギーセンター長

ハイブリッド開催